

教科目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

1学期 主な学習内容（32時間）	2学期 主な学習内容（43時間）	3学期 主な学習内容（30時間）
【体育分野】 1 体育理論（運動やスポーツの効果） 2 体づくり運動 3 器械運動（マット運動） 4 球技（ゴール型） 5 水泳 【保健分野】 6 傷害の防止	【体育分野】 1 陸上競技（短距離走・リレー） 2 陸上競技（ハードル走） 3 武道（柔道） 4 球技（ベースボール型） 5 体育理論（運動やスポーツの学び方） 【保健分野】 6 傷害の防止 7 健康な生活と疾病の予防	【体育分野】 1 体育理論（運動やスポーツの安全な行い方） 2 球技（ネット型） 3 陸上競技（長距離走） 4 ダンス（創作ダンス） 【保健分野】 5 健康な生活と疾病の予防

評価の観点と規準（各観点の割合は、全て達成率100%で統一する。）

	評価の観点（1学期より抜粋）	評価の方法・資料	評価方法の基準と「概ねB評価」等の設定（行動目標）
I 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツは、心身の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自身の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果を理解する。 ・体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気づき、仲間と積極的に関わり合うこと。 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。 ・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。 ・平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。 ・傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深めるとともに、応急手当をすることができる。 	〔全教科共通〕 ・定期テスト 【各教科の方法・資料】 ・実技テスト ・授業観察	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに実技テストを行う。フォーム、記録から計算した個人目標の達成度などで評価する。 【各教科 独自の方法】 ※評価基準については、授業内で提示。 例：器械運動「マット運動」 自分が行うことができる技の完成度を高めて披露する。 A→技の成立条件を押さえた実施と綺麗さや安定感が高い。 B→技の成立条件を押さえた実施。 C→一部の技の成立条件を押さえた実施。

<p>Ⅱ 思考・判断・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、危害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができる。 	<p>〔全教科共通〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期テスト <p>【各教科の方法・資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> フォームへの入力内容や学習カードへの記入内容と授業での取り組み状況 ノートなどへの課題の取り組み状況 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードやレポートで評価をする。 <p>【各教科 独自の方法】</p> <p>※評価基準については、授業内で提示。</p> <p>例：器械運動「マット運動」</p> <p>その授業における、自分の課題に対してどのようなことを考えて取り組んだかをフォームにまとめる。</p> <p>A→自分の課題に対して工夫して取り組み、その結果を生かせる内容の記述がある。</p> <p>B→自分の課題に工夫して取り組んだ内容の記述がある。</p> <p>C→自分の課題に工夫して取り組むことが読み取れない。</p>
<p>Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組むこと。 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができる。 水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ることができる。 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。 	<p>【各教科の方法・資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に取り組む態度(目視・学習カード、レポート、保健ノート等の提出物) 仲間への声かけの様子(目視・学習カード、レポート、保健ノート等の内容) 単元に合わせた準備運動や自己の課題に対する取り組み態度(目視・記録の伸び率) 	<p>〔全教科共通〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業、課題に意欲的に取り組み、意見を積極的に発言しようとする。 <p>【各教科 独自の方法】</p> <p>A 試合の時に、勝敗などを認め、ルールやマナーを守っている。</p> <p>B 試合の時に、ルールを守っている。</p> <p>C 試合の時に、ルールを守ることができない。</p>